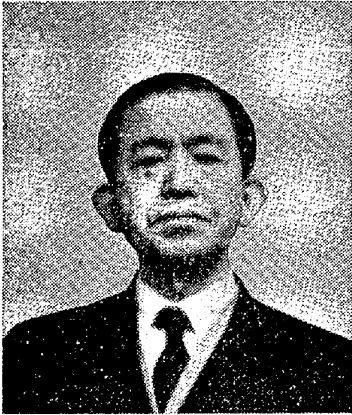


卷 頭 言

輸出産業として日本鉄鋼業の基盤の確立

斎 藤 三 三*



我国鉄鋼業の現状を顧み、私は輸出産業として日本鉄鋼業の基盤のより鞏固に且つ速やかに確立されんことを切望し、先づ圧延機の徹底せる国産化を庶幾するものである。

謂うまでもなく祖国経済の自立なくして日本の真の独立はあり得ない。戦後7年を経て克ち得た我国の独立も、28年度に於ける国際収支の赤字3億1千3百万弗によつて根底から脅威され、挙国深憂措く能わざるものがあつた。されば昨29年度の貿易決済がプラスに転じ、単に赤字の消滅に止まらず3億4千4百万弗の黒字となつたことは、たとえその内容に脆弱な素因を含むにせよ、真に国家の慶事、円価の低落を免れ得ただけでも莫大な利福で、国民は蘇生の想をした。結局28年度に対する国際収支の改善は6億5千7百万弗となり、内、輸出の増加は3億5千百万弗に達した。而して其の内3割強の1億1千万弗が鉄鋼輸出の増加に由るものであつて、我国経済の自立上、鉄鋼業の貢献する所は決して尠くなく、今後更に独立完成のため斯業に対する国家の期待は、愈々大である。

敗戦の直後、荒廢の祖国に僅に30万t余の生産を保ち、前途真に暗澹だつた日本の鉄鋼業が、今や年産600万tに立直り、基礎産業として国家の再建に一翼を担ひ、さらに、世界市場に進出して輸出産業として国家経済の自立に資するに至つたのは、世界政局の変貌、朝鮮特需に負う所多いが、伝統40年、光輝ある日本鉄鋼協会の誘掖指導による日本鉄鋼技術の昂上、鉄鋼業界指導層の陣頭指揮、並に、火熱を辞せざる鉄鋼人士の生産増強等、相俟つて山積せる難関險路を克服した成果に外ならずといえる。同時に斯の如き学界と業界との緊密なる提携、協力を以てすれば、今後日本の鉄鋼界に起り来るべき如何なる難問題も、其の解決は必至と確信する。

戦後の日本の復興は、其の外観は問はず、ひそかに其の内容、基盤を静観すれば、同じく敗戦の苦を喫したる西独その他に比し、まだ及ばざる所、決して尠なからずと屢々聴くのである。国土の喪失により資源の、より乏しい又技術に於て甚しきハンディキャップを余儀なくされた我国としては、各人須らく、創意を凝し、研究に努め比較的条件有利なる労力を活用し、協心戮力、以て国本を培う外はないと信ずる。果して然りとせば、鉄鋼関係人として吾々は此の際、輸出産業としての日本鉄鋼業の基盤を培い、より鞏固に、且つ速やかに、之が確立に最善を尽すことこそ、国家の要請に應うる所以であると信ずる。

鉄鋼輸出増進の根本は、謂うまでもなく、彼に優る製品をより低廉に造ることである。良品廉価こそ真に貿易拡大の最後の鍵である。戦後日本鉄鋼業は、累次の合理化計画の実施により、著しく能率を高めた。就中、板、線、管等の圧延設備は新鋭機の輸入により、その面目を一新した。旧設備の自主的廃棄等解決に時を仮さねばなるまいが、是等新鋭機の全能率が発揮される時、コストの低下、品質の向上は必至で、世界市場に於ける競争力が、一段と強化されることは疑いの余地なく、輸出産業として日本鉄鋼業の使命達成上、真に力強き限りである。海外より新技術を導入することは、後進技術の回復上、容易に考え及ぶ所であり、急を要する場合の常套手段でもある。戦後劣勢なる日本鉄鋼業の急速挽回対策として新鋭機の輸入措置は、寧ろ緊急事であつた。海外資本には又屢々紐付輸入が伴うものである。海外優秀技術の移植は古く14世紀、英国でさえエドワードⅢ時代から行われ、“パテント”なる言葉の起源にさえなつた。現実日本に於て、明治以来所謂舶来した幾多の技術は、不識の間、国産化され大半は輸出とな

* 昭和興業株式会社取締役、元日本製鉄KK富士製鋼所々長

つて居る。若し吾々が安易に是等の現実に傾き、馴れ、之に忸む時、外国技術輸入正論はまだしも、奨励論さえ、不思議でない錯覚にたやすく陥るであろう。

今日輸出産業として日本鉄鋼業の置かれた立場から、又今後の国策の要請に鑑み、私は是等一連の新鋭輸入機の国産化と輸入機以上の優秀機国産化の急務なることを強調する。そして之が実現に不可欠なる技術上の基本的研究が、関係の学者、研究家、技術者間に、積極的に開始且促進されることを冀望するものである。

凡そ輸入の圧延機が稼動開始の交に於ては、メーカー側設計スタッフの脳中には、該稼動機の運転成果を参酌し是正改善を加え、一步高能率なる、即ちよりコスト低き、優良品の圧延可能なるべき次の圧延機設計の構想が、略々形象されて居ると見ねばなるまい。輸出の増進に関連する鉄鋼品の圧延機が、かくの如く輸入機の故を以て、一日の長を常に、彼に譲るとせんか、競争力は、品質及びコストに於て既に一步を彼に譲る所以である。これ圧延機国産化の徹底を主張する第1の理由である。優秀圧延機的设计陣容を国内に充実維持することは、凡ゆる既設鉄鋼施設の合理化徹底の捷徑である。これ理由の第2である。戦後輸入の主要圧延機は現物価換算700乃至800億円を算し、日本工作機械年産額の20倍に該当し、海外技術依存度の高率なる、日本工業中他に比類を見ずとの巷間の声に対処し、又将来保し難き同一事態の繰返を慮り、予め之に備えんとする、これ理由の第3である。偶々、最近機械工学関係の学者技術者、塑性加工機械製造業者間に金属類の塑性学、塑性加工工学、及塑性加工機械に関する研究意欲が盛り上り遽かに旺盛に赴き、高性能塑性加工機械の設計に緊要不可欠なる塑性工学、同技術、同加工機械の特性に関する諸データの整備が着々進歩を見る機運となり、一方日本の機械製作技術は最近長足の進歩を遂げ、概ね国際水準に達するに至つたと見られるので、此際適當なるスポンサーが圧延機のフル国産化運動を提唱せられ、関係各界の学者、関係学界塑性加工業者、鉄鋼業者、技術者、機械製造業者協力の下に、基本的な総合研究が、遂行されるならば、容易ならずと雖も国産化徹底の可能性は十分なりと確信せられる、これ理由の第4である。

昭和28年度に於て日本から特許使用料として、海外に支払つた54億円に付ては、それによつて日本産業に筋金が入り、若返つた勢で、国際市場に迄跳ね返るためのホルモンと見るなら、彼是騒ぐ程のこともなからう、との声に対し独創力の足りない国民ではないのだから、いつ迄お智恵拝借でもないではないか、創意と工夫で逆に技術の輸出稼ぎが出来たなら、国際収支にもすぐ役立つではないか。今の調子で行けば54億円が100億円で、更に200億円にならぬと誰が保証出来よう、との技術国産化の積極論も聞く。目を転ずれば米国一流のお智恵拝借のやり方も映つて来る。金に飽かした最高の膳立で、世界智識の最高峰の招聘、頭脳ズバリの移殖であり、専ら余念なきもののように客観される。斯る多岐複雑の情勢裡に最近感ずる所の一端を秃筆を呵し「輸出産業としての日本鉄鋼業の基盤の確立は、「先づ圧延機国産化の徹底」として座右に呈する次第で、文中意の尽さざる所を寛假せられ、御推諒下さるならば真に幸甚である。